



## キャンパス・コラム

### 貴ノ花はヘビースモーカー

まず、ジョークをひとつ。「日本で一番タバコを吸うのは誰でしょう？」

正解は「貴ノ花」あるいは「武蔵丸」。そのココロは、「スモーカーキング」（横綱）！

寒いギャグはさておき、モノレール駅を降りるや否や、やおらタバコを吸い出す学生が少なくありません。

もっとも、これは学生だけでなく、一部の教職員にも見られる現象です。このような場所での喫煙は予測されていませんので、大学構内のかなり内部に来るまで、灰皿はありません。駅から灰皿が常備されている場所まで、5分以上タバコを吸い続けることはできませんので、哀れ、吸い殻の大半は地面に散乱することになります。また、6号館の階段に吸い殻が散乱しているのも、よく目撃されます。

このような光景は、もちろん大学内部に限定

されたものではありません。歩行喫煙は、駅や町的美観を損ねるのみならず、子供が目や鼻を負った事件が発生したことから、各地の自治体では、一定地域の歩行喫煙を禁止する条例を制定する傾向が強まり、なかには罰則を設けるケースも現われています。

このような動向に対しては、喫煙という個人的な嗜好に関する行為は、当人のモラルに委ねるべきであり、国家が介入すべきではないと考えることもできます。しかし、喫煙が個人的な嗜好であるということが、他人に迷惑をかけている場合にも規制しなくてもよいことには結びつきません。歩行喫煙による被害が顕在化している場合には、法的な規制もやむを得ないでしょう。

中央大学でも、教室廊下での喫煙を注意した教員が学生から煙草の煙を吐きかけられたとの記事を以前読んだことがあります。大学でも、禁煙教育の徹底が何よりも必要とされているのかも知れません。

「エゴ・キャンパス」よりも、「エコ・キャンパス」を！

広報委員 山田省三（法学部教授）